

関山街道講座「よみがえるふるさとの歴史 地域資源の存続の意義を考える」

ーワークショップー

歴史資料レスキューの実際を体験しよう

歴史資料は地域にとってかけがえのない文化的資源、関心ある人を増やし活動を理解してもらうために！！



講義で資料の保存と継承を学ぶ

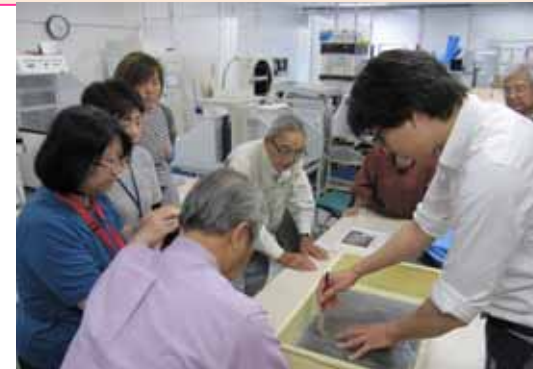


参加者メンバー

- ◇日時：平成27年8月25日（火）13：00～17：00
- ◇会場：東北大学災害科学国際研究所5階
- ◇講師：天野真志氏（東北大学災害科学国際研究所 助教）
- ◇参加者：9名
（工藤、鈴木、佐藤(正)、澤村、廣田、只野、澁谷、小野、横山）



天野講師



わかりやすい作業手順のてほどき



皆さん興味津々で聴講



泥だらけの資料（模造）

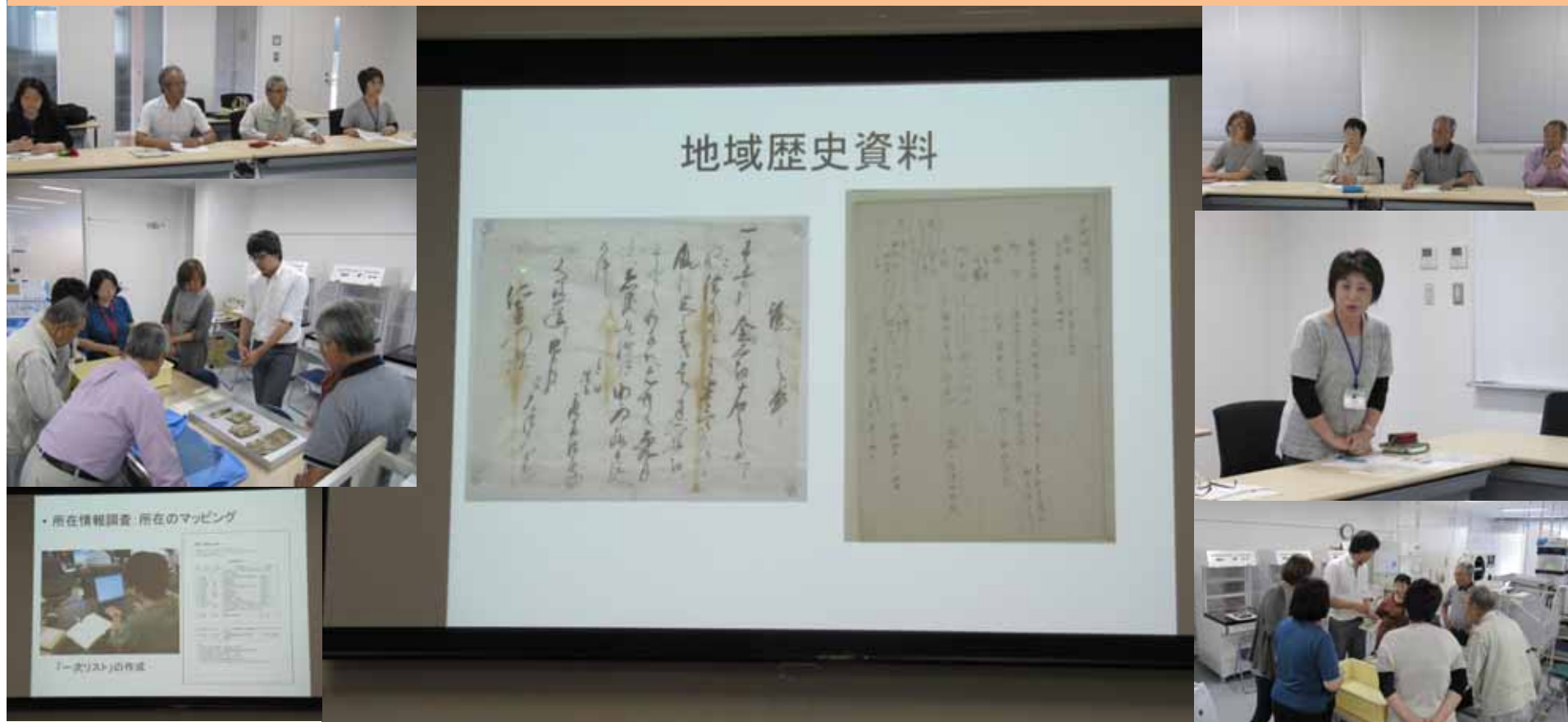
【地域の歴史文化を継承】

⇒未来へ伝えるために地域でできること

- 資料の所在の把握が大切
- 資料の歴史的・文化的意義の共有
- 被害を受けた際には速やかな保存活動

関山街道講座「よみがえるふるさとの歴史 地域資源の存続の意義を考える
ーワークショップー**歴史資料レスキューの実際を体験しよう**

写真編



【参加者の主な意見等】

- 資料の提供には所有者の理解が必要⇒内容がわからないと判断できない、資料を整理し残すことを前提に了解を得て作業を実施
- プライベートに関わる内容はフィルターにかけるが、公開のあり方はコンセンサスが得られないと難しい
- 古文書を読む会は随時開催している、法則がわかれば1年くらいで読めるようになる
- 地域での市民センター等との連携など、このような活動の広がりにより理解者が増えることに期待
- 参加者などの本講座への感触を踏まえて、発展的、継続的な取り組みになるよう今後検討